

合同

No. 472

「原点復帰」

つるかわ台教会牧師

三浦 寿夫



「わたしはあなたを大いなる国民にし あなたを祝福し、あなたの名を高める 祝福の源となるように」(創世記12章2節)。

かつて、木工の仕事をしているときNCルーターという機械を使っていました。数値制御で、回転する刃物を動かし(実際には定盤も動きます)、手加工では困難な大きなテーブルや、複雑で加工しにくい部品の溝突きなどを、安全に扱う機械です。この機械でさまざまな加工をしますが、工程の最後に、必ずしなければならない作業が、原点復帰です。XYZ軸の原点へ帰ることによって、回転刃の自分の位置確認と、どこへ動けば良いのかが明らかになります。

わたしたちクリスチャンも、信仰の歩みを続けながら、見える現実の中で、多くのことに対処し、ときにさまざまな力に翻弄されます。そして、生活の中で、喜んだり、悲しんだり、傷ついたり。仕事の悩みの中で、苦しんだり、踏ん張ったり、倒れたり。気がつくや、試みや誘惑につまづいたり。いつの間にか、物事への対処に埋没し、この世のあり方に埋もれてしまうこともあります。天で呼吸をしていたつもりが、地上の風に押し流されてしまっているときもあるでしょう。あるいは、霊的な感覚が鈍ることもあります。

教会も同じように、この世の力に流されて、アイデンティティーを見失う危機に直面します。

このようなとき、大事なことは原点へ立ち帰ることです。わたしたちの信仰の歩みを続けるときも、原点復帰することによって、自分たちのアイデンティティーの確認とどこへ向かって行くのかが明確になります。

わたしたちの原点を、神の祝福の計画という視点で見てください。

教会は、神の民です。この民は、神とアブラハムとの約束、祝福の源となるという約束を受け継いだ民です。地上のすべての民が、神の民を通して祝福に入るという約束です(創世記12章3節)。イエス・キリストは、その約束を果たすために来てくださいました。

教会は、イエス・キリストの贖いを通して、この祝福にあずかる者の群れです。そして神への信仰を通して、その約束を受け継ぐ者として、今度は祝福の源として遣わされる民です。

わたしたちは、この原点、祝福の民とされたことを見失ってはいけません。まず、主が共におられる現実にあること。そして、わたしたちのすべての面で、神が愛をもって、ご自身の命を注いでくださり、その命にわたしたちが生き生きと生かされる、これが祝福です。

わたしたちの生きる日々は、わたしのものであると同時に、み国へ向かう救いの大きな潮流を起こされた神のものであります。

行き詰まるときは、祝福のご計画を続けておられる神の目の中へ、わたしたちの主イエス・キリストのまなざしの中へ身を置いてみましょう。

大切なのは、何よりも主があのかの十字架と復活をもって、わたしを祝福に入れてくださったことを心で受け止め、今、主が共にいてくださる恵みを全身全霊をもって感じ、味わうことです。

こんな時代です。困難な状況は目の前に迫っています。しかし、わたしたちの主なる神へ目を移せば、祝福の約束のご計画はたゆまず進んでいるはずですし、すべては、そのみ手の中にあります。

わたしたちは祝福の源として生かされていることに立ち帰りましょう。

原点復帰です。この時代だからこそ、あらゆることを超えて、神から有り余るほどの祝福をいただいている恵みをまず喜び、感謝しましょう。

そして、きょうも祝福の源として、主にある祝福を、隣人に分かつ一日でありますように。